

デュロキセチンカプセル「サワイ」 を服用される患者さんにご家族の方へ

- 糖尿病性神経障害に伴う疼痛
- 線維筋痛症に伴う疼痛
- 慢性腰痛症に伴う疼痛
- 変形性関節症に伴う疼痛



沢井製薬株式会社

「痛み」とは？

- ケガや火傷^{やけど}などをしたときに起こる痛み、神経が傷つくことで起こる痛みなど、様々な原因で痛みは発生します。もともとの原因がなくなれば治まりますが、原因がなくなっても痛みだけが長く続くことがあります。
- 痛みは、脳の神経細胞が「痛い」という信号を受信して生まれる感覚です。痛みに関連する神経の経路には、
 - ①「痛い」という信号を脳に伝える経路
 - ②「痛い」という信号を抑える経路の2つがあります。
痛みが長く続くのは、「痛い」という信号を抑える経路に異常が生じていることが、原因のひとつであると考えられています。

デュロキセチンカプセル「サワイ」のはたらき

- このお薬は、長く続く痛み（糖尿病性神経障害に伴う痛み、線維筋痛症に伴う痛み、慢性腰痛症に伴う痛み、変形性関節症に伴う痛み）をやわらげます。
- 神経伝達物質であるセロトニンとノルアドレナリンは、「痛い」という信号を抑える経路にかかわっています。このお薬は、セロトニンとノルアドレナリンの量を調整することで、痛みを抑制すると考えられています。
- このお薬は、うつ病の治療にも使われますが、その効果とは別に、痛みに対する効果を示します。

デュロキセチンカプセル「サワイ」を飲む前に

うつ病など、精神科の病気で治療されている場合は、服用前に必ず医師に伝えてください。
このお薬は、精神科の病気の症状に影響を与えることがあります。



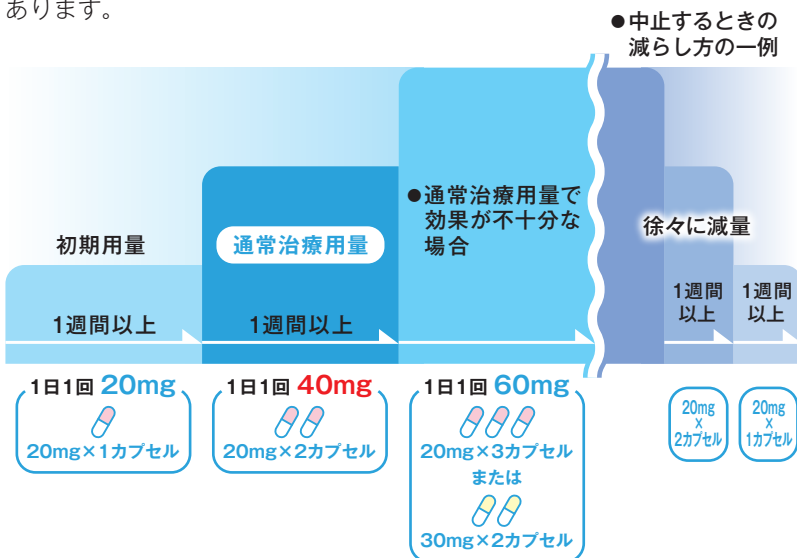
デュロキセチンカプセル「サワイ」の飲み方

- 1日1回朝食後に服用します。
- 痛みがあるときだけ服用するのではなく、毎日服用することで効果を発揮
- 効果があらわれるまでに時間がかかる場合があります。ご自身の判断でお薬

中止するときは、医師と相談しながら**少しずつ量を減らしていきます**。
気分の変調、頭痛、吐き気などの症状があらわれることがあります。

糖尿病性神経障害に伴う痛みがある患者さんの場合

1日1回20mgから飲み始めます。効果や副作用の状態をみながら、1週間以上の間隔をあけて20mgずつ増量し、通常治療用量の40mgを服用します。効果が不十分な場合は、1日1回60mgまで増量することができます。



します。
の量を増やしたりせず、医師の指示通りに服用してください。

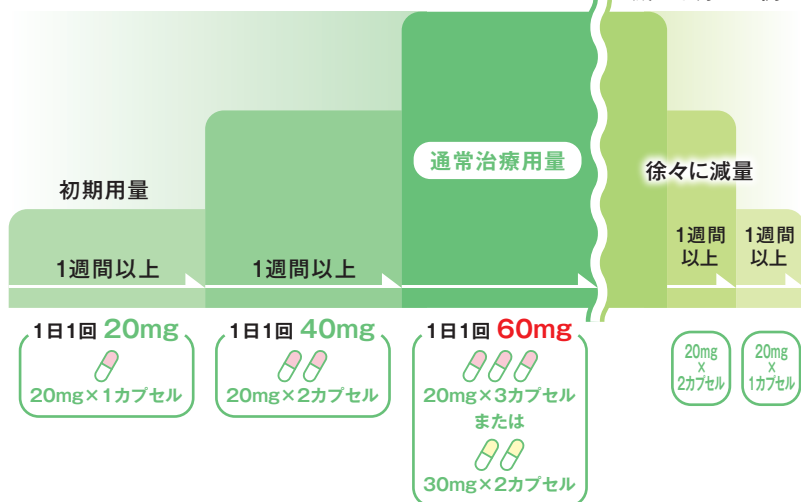
ご自身の判断で服用を中止したり、量を減らしたりすると、
医師の指示通りに正しく服用してください。



線維筋痛症・慢性腰痛症・変形性関節症 に伴う痛みがある患者さんの場合

1日1回20mgから飲み始めます。副作用の状態をみながら、1週間以上の間隔をあけて20mgずつ増量し、通常治療用量の60mgを服用します。

●中止するときの
減らし方の一例



デュロキセチンカプセル「サワイ」の副作用

- 飲み始めの時期に、**眠気**や**吐き気**などの副作用があらわれることがあります。気になる症状があらわれた場合は、医師または薬剤師に相談してください。ご自身の判断で服用を中止しないでください。

◎ 飲み始めや飲む量が変わったときに、

- ・ イライラして落ち着かない
- ・ 生きるのがつらいと感じる
- ・ 消えてしまいたいという気持ちになる

といった症状があらわれたり、場合によっては死にたいという気持ちになったりすることが、まれにあります。

◎ 不安になる、あせる、興奮しやすい、攻撃的になるなどの症状があらわれることがあります。

このような症状があらわれた場合は、医師と相談の上、必要に応じて精神科／心療内科の受診を検討してください。



🏠 ご家族の方へ

上記のような症状に気がついた場合は、患者さんご本人またはご家族から、早めに医師に連絡してください。

服用中の注意点

- このお薬は、**肝機能**、**心拍数**、**血圧**に影響を与えることがあります。そのため、血液検査や脈拍数・血圧の測定を行い、異常がないか確認することがあります。
- 糖尿病の患者さんでは、このお薬により、**血糖値**や**HbA1c**が上昇することがあります。その場合は、必要に応じて糖尿病治療薬の調整が行われます。
- **めまい**や**ふらつき**により転倒することがあります。このような症状を感じた場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- 眠気、めまいなどが起こることがありますので、**自動車の運転などをする際は、十分に注意してください**。これらの症状を自覚した場合は、自動車の運転などは絶対にしないでください。
特にお薬の飲み始め、飲む量を変えたとき、他のお薬から変えたときにこれらの症状があらわれやすいため、医師から運転などをしないよう指示があった場合は必ず守ってください。
- 痛み止めとして用いられる非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)は、消化管出血の副作用が知られています。このお薬とNSAIDsを一緒に使用すると、**消化管出血**が起こりやすくなるおそれがあります。
気になる症状があらわれた場合は、医師または薬剤師に相談してください。
- カプセルを開けたりせず、そのまま服用してください。

**気になること、わからないことがある場合は
医師または薬剤師に相談してください。**